



校訓「共創」

学校教育目標 [いのち輝かせ 未来を創る 港っ子の育成]



港っ子

豊岡市立港小学校

令和3年12月2日

～ 2 学期・本年（丑年）締めくくりの12月 ～

いよいよ、本年の締めくくりの月となりました。11月は実り多き秋ともなりました。学習では、本年度重点的に取り組んできました「ふるさと学習」で、地域の地域を訪ねたりゲストティチャーとして様々な方からお話を聞いたりして、多くの事を考えることができました。次のような教材で取り組みました。

1年生は、教材名を「みなととなかよし」とし、身の周りの自然の特徴に気付き、関心を持ち、自然を生かした遊びや物づくりに挑戦。身近な自然物を使いながら、より地域を知ることができました。

2年生は、教材名を「もっと知りたいみなとのすてき」とし、身の周りの地域の施設を調べ地域探訪しながら地域の様子を理解しました。今まで知らなかった施設を知ることにより、地域がどのように成り立っているのかを知ることができました。

3年生は、教材名を「ふるさと港の環境を守っていこう ～これから私たちができることを考えよう～」とし、田結湿地、気比の浜、津居山漁港の様子やそこに住む生き物を実際に見たり調べたりし、港地区の自然と日常生活の結びつきを理解しました。そして、これから自分たちができることは何かを考えました。

4年生は、教材名を「発信しよう！～港の産業と未来のために～」とし、港地区の漁業の現状、漁業を支える人々の努力や思いを、漁業組合の方からお聞きしたり、資料を集めたりしたものを整理し分析をしました。考えられる課題を整理しながら、これから自分達は何ができるかを考え、伝えていきます。

5年生は、教材名を「港地区の未来を考えよう ～コウノトリと共に生きるために、今、できること～」とし、コウノトリの野生復帰に関わる話や記録を調べ、港地区との関係を考えながら、生きる為にはどのような環境が必要かを考えていきました。

6年生は、教材名を「ジオの秘密 再発見」とし、この山陰海岸、豊岡、港地区の地質や地形を調べ整理しました。このジオパークの特徴の中で自分たちの生活は、何をいかに利用しながら、また、影響されながら営まれているのかを理解していきました。そして、ふるさとへの愛着や誇りをもち、この環境や地域を大切にしようとする気持ちを培っていきました。

各学年、この学習を行うに当たって、身に付けてほしい力を次のような点でとりくみました。

- ① 情報を的確に、そして多く収集することができる。
- ② 比較や分類や関連付けなどの「考え方」を意識し、「考える」ことを行いまとめることができる。
- ③ 自分の思いを、根拠を明確にしながら伝えることができる。
- ④ 友だちと意見を交換しながら、協働的に課題を見つける力をつける。
- ⑤ 自分たちのふるさとについて学んだ内容や身に付けた力を、これからの学習や生活に生かす。

「ふるさと学習」で、今まで知らなかったことや初めて訪れた場所での多くの学びやそれぞれの体験をもとに、自分たちの地域の「ひと もの こと」をよく知り、自分ができることは何かを考える学習に結び付けていきたいと思います。

思考の方法と言葉の例	
思考の方法	言葉の例
① 順序	「まず、次に、最後に…」 「～で考えると、〇△の順になります。」
② 比較	「ちがうところは～です。」 「〇は△より～です。」 「〇は△にくらべて～です。」
③ 分類	「必要なものを～」 「～をみると、〇△は仲間です。」
④ 理由	「理由を言え。」 「～の理由は、～だからです。」 「～になった原因を考えると…」 「～は～の～です。」
⑤ 関係	「目的にあったつながりを見つけて。」 「〇△は～だから関係があります。」 「〇△を関連させて、～だと考えられます。」
⑥ 視点	「〇から見たら、～になります。」 「〇から考えると～ですが、△から考えると…」
⑦ 仮定	「条件にそって、結果を予想する。」 「もし～ならば、～となります。」
⑧ 具体化	「具体的な事例をあげる。」 「例えば、～」
⑨ 抽象化	「性質や傾向を見つける。」 「これらの例から、～といえます。」
⑩ 評価・批判	「理由をもとに価値をつける。」 「～が～素晴らしい理由は…」 「～は、～にした方がよい。理由は…」



思考力・判断力・表現力 (課題解決の力)	○課題を見つける力★ ○課題解決のために計画する力★ ○必要な情報を集める力★ ○情報を整理する力★★★★★ ○調べたことをまとめる力★★★★★ ○表現する力 ○自分の成長に気づく力
主体的に学習に取り組む態度	○自分や友達の考えのよさが分かり、大切にしようとする。★★★★ ○進んで取り組もうとする。★★★★ ○友達と協力しようとする。★★★★ ○問題解決に向けて、自分のこととして取り組もうとする。★★★★

＜思考の方法を掲示例＞

＜班での話し合い・発表＞

＜学習で大切にしたい事柄＞

非認知能力の育成

「いつでも、どこでも、非認知能力の向上を意識して」

世界中で研究が進み、近年、その重要性が認識されている能力に、非認知能力があります。非認知能力はIQ（知能指数）やテストのような数値で測れる認知能力とは異なり、見えにくいものと言われます。非認知能力には大きく2つの力があります。まず、自尊心、自己肯定感、やり抜く力、自立心、自制心、自信などの「自分に関する力」。そして、一般的には社会性と呼ばれる、協調性、共感する力、思いやり、コミュニケーション能力、良いか悪いかを知る道徳性などの「人と関わる力」です。これらの力は「社会情緒的スキル」ともいわれ、特に乳幼児期に身につけておくと、将来に渡って幸せな生活を送ることができるといわれています。

日本の幼児教育では、もともと心の教育を大切にしてきました。近年、測ることができる能力（読み書きや計算といった知育教育など）が重視されがちでしたが、最近になり、非認知能力が注目されるようになったのです。

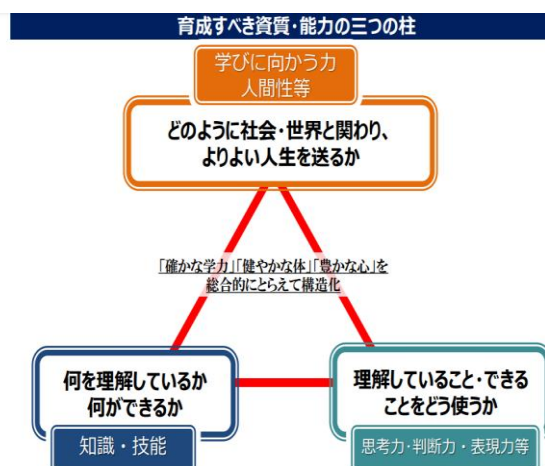
豊岡市教育委員会では、第4次とよおか教育プランで非認知能力の向上に取り組んでいます。非認知能力の中でも、特に「やり抜く力」「自制心」「協働性」の力の向上を重点的に行っています。

非認知能力は、数値では測れる学力を下支えする力、生きる土台となる力、教育によって向上させることができる力と捉えられ、この能力を高めるには、他者を意識した表現（演劇やダンスなどのアウトプット型）の学習が有効とされています。「自分の考えを伝える」「仲間の意見を受け入れる」「納得して合意形成する」過程が大切とされます。テストでは測れない力・見えない学力ですが、学力の高い子どもは、生活習慣や学習習慣、思いを伝える力が高水準にあると言われます。

小学校で令和2年度から本格的に始まった新学習指導要領では、育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱から整理しています。（右図）

認知能力である「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」だけでなく、非認知能力である「学びに向かう力・人間性等」を重視しています。

学校でも、学習や各活動で非認知能力を意識した教育活動を行っていきますが、ご家庭や地域でも非認知能力を意識した子どものかかわりを広げていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



<文部科学省ホームページより>

学期末懇談会

12月21日（火）22日（水）に2学期末個別懇談会を実施します。

2学期も十分には学校でのお子様の様子を見ていただけなく、大変申し訳ありませんでした。それぞれのお子様は、今学期、いろんな壁に当たりながらも日々成長し大きくなりました。短い時間ではありますが、それぞれの頑張りや成長を担任と懇談していただき、3学期に向けての励みにしていただけると大変ありがたいです。よろしくお願いいたします。

12月の主な行事予定

- 1（水） 学校評議員会
- 3（金） 委員会
- 6（月） 代表委員会
- 7（火） 児童朝会
- 8（水） 読み聞かせ 5・5交流会
- 14（火） 全校朝会 永楽館 鑑賞（6年）
- 17（金） 食育の日

- 21（火） 2期末個別懇談会
- 22（水） 2期末個別懇談会 読み聞かせ
- 23（木） 地区児童会 家庭読書の日
- 24（金） 2学期終業式
- 28（火） 仕事納め
- 1月
- 7（金） 3学期始業式